

☆ 世 界

綿 花 中国シェアが縮小し、アジア諸国で輸入・消費が拡大

ICAC(国際綿花諮問委員会)はこのほど、世界最大の綿花輸入国である中国の動向を中心に世界の綿花需給の見通しを発表した。

中国政府は、国内産綿花の消費を推奨するため、2015年に続き2016年の輸入割当量を89.4万トに制限することを9月に発表した。2015/16年の中国の綿花生産は540万トの見込みだが、中国政府は依然として1,100万トの備蓄在庫を抱えている。2015/16年の中国の綿花供給量は、輸入量を除いて1,800万トで、年間消費量予測(770万ト)の2倍以上に当たる。今年は国内産の品質が懸念されており、高品質な綿花の需要は輸入綿花によって一部満たされる見込み。2015/16年の中国の綿花輸入は24%減の140万トで、世界の綿花輸入量に占める割合は、2011/12年の55%から2014/15年には22%に落ち込み、さらに2015/16年には17%にまで縮小すると見られる。一方で、その他のアジア諸国の輸入は増加しており、中国による輸入縮小を相殺している。世界の綿花輸入に占める中国を除くアジア諸国の綿花輸入は、2011/12年には31%だったが、2015/16年には450万トで60%に拡大する見込み。中国に次ぐ三大綿花輸入国であるバングラデシュ、ベトナム、インドネシアの2015/16年の綿花輸入を見ると、バングラデシュは4%増の100万ト超、ベトナムは5%増の99万ト。2013/14年に落ち込んだインドネシアの輸入は2014/15年に13%増の73.5万トに回復し、2015/16年は78万トに達すると見られる。

中国を除くアジア諸国の2015/16年のミル消費は4%増の1,200万トで、世界のミル消費(2,500万ト)の48%を占める。インドは3%増の560万トで、パキスタンは2%増の260万トの予想。

中国の綿花政策が進展したことや、綿花輸出国が継続的に新規市場を開拓しているため、世界の綿花貿易は依然活発であるものの、2015/16年の世界の綿花生産は9%減の2,390万トで、消費を約110万ト下回る見通しである。2015/16年の米国の綿花生産は11%減の320万トで、輸出は9%減の220万トといずれも減少するものの、米国は依然として世界最大の綿花輸出国であり続ける。世界第2位の綿花輸出国であるインドの輸出は15%増の110万トの見込み。フランス語圏アフリカ地域については、輸出が110万トで、2010/11年に49.4万トだった生産は2014/15年および2015/16年は110万トと、着実に伸びている。また、

2010/11 年に 6%に過ぎなかった世界の輸出に占める割合は 2015/16 年は約 14%にまで拡大する見通し。

2015/16 年の期末在庫は、中国に関しては 8%減の 1,170 万トで、中国以外の国々は 2%減の 900 万トと予測されている。

世界の綿花需給見通し

(100 万ト)

	2013/14	2014/15	2015/16
生産	26.28	26.16	23.92
消費	23.63	24.47	25.05
輸入	8.67	7.60	7.47
輸出	9.00	7.71	7.47
期末在庫	20.29	21.86	20.73
価格*	91	71	73

*Cotlook A インデックス(セント/ポント)価格は、中国を除く世界の在庫率の見通し、中国の綿花輸入見通しをもとに推計した。